

ヨハネの手紙第一3章16-18節 「命を捨てる愛」

1A キリストの手本 16

1B カインの道との対比

2B ご自分のいのち

3B 兄弟への愛

2A 憐れみの心 17

1B 持っている財

2B 困窮への目

3B 閉ざす心

3A 行いと真実 18

1B ことばや口先

2B 真実な愛

本文

ヨハネの手紙第一 3 章を開いてください、私たちの学びは 3 章 15 節まで来ました。今晚は、16 節から 18 節を見ていきます。「¹⁶ キリストは私たちのために、ご自分のいのちを捨ててくださいました。それによって私たちに愛が分かったのです。ですから、私たちも兄弟のために、いのちを捨てるべきです。¹⁷ この世の財を持ちながら、自分の兄弟が困っているのを見ても、その人に対してあわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょうか。¹⁸ 子どもたち。私たちは、ことばや口先だけではなく、行いと真実をもって愛しましょう。」

私たちは前回、兄弟を憎むことへの警告を見てきました。同じ、父なる神から生まれたはずなのにそれでも憎むことができるというのは、どういうことなのか？それは、ヨハネははっきりと、神から生まれたのではなく、悪魔から出て来たのだ、と言いました。背景には、ヨハネが反キリストと呼んでいる偽預言者たちが、使徒たちの教えを守っている教会から離れていったことがあります。自分たちに与えられた知識によって神に近づいていると教え、教会は神から離れているとしました。それで交わりを切ることをしたのです。これが究極の憎しみです。今日の時代、分断や分離が数多く社会の中にあって、教会がそれから免れているとは思えません。もはや、その知識には、イエス・キリストの知識があるとは言えず、永遠のいのちも留まっていないと言えます。

そしてヨハネは、兄弟を憎むことに対する警鐘から、兄弟を愛する命令へと移っていきます。

1A キリストの手本 16

^{16a} キリストは私たちのために、ご自分のいのちを捨ててくださいました。それによって私たちに愛

が分かったのです。

1B カインの道との対比

ヨハネは、カインの道とキリストの道を対比しています。カインは兄弟を殺しました。人の命を取りました。しかし、キリストは、その反対にご自分のいのちをくださいました。命を取るのではなく、いのちを下さったのです。福音書でヨハネはこう書き記していました。「ヨハ 15:13 人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」そしてパウロも言っています、「ロマ 5:8 しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。」

何度となく聞いている言葉ですが、立ち止まってこのことを思い巡らすと、どれほどの愛なのか！を私たちは知ります。まず、天地万物を造られた方、その御子が、私のためにいのちを捨ててくださいました。ご自分の造られた被造物を滅ぼす権利と力をお持ちのお方です。どのようなことをしても良い主権者です。しかも、悪者を滅ぼすことは、正しいとさえ言えます。しかし、神はそれでも私たちを憐れまれて、敢えてその力をお用いにならず、自ら、御子にあって命を捨てることにお決めになりました。

2B ご自分のいのち

「**ご自分のいのちを捨てて**」というところが大事ですね。これは、単に死ぬことだけではなく、いのちが削り取られる、犠牲を払って、命が注がれることも含まれます。イエス様は他のところで、「マルコ 8:35 自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音のためにいのちを失う者は、それを救うのです。」と言われました。私たちには、いのちを救おうとする生存本能があります。自分の自尊心と言ったらよいでしょうか、自分の魂を生かしていこうとするのです。それがあるので、人は自分の存在が脅かされていると感じるなら、何とかして相手を貶めようとさえします。カインのように人を殺すのは、自分というものを生かす行為でもあります。人を憎むというのも、自分を生かしたいという現れです。

しかし、その私たちが、ご自分のいのちをお捨てになったキリストの愛を知る時に、その自分を生かそうとする思いを取り除かれます。そこで次の箇所に入ります。

3B 兄弟への愛

16b ですから、私たちが兄弟のために、いのちを捨てるべきです。

神の無限の愛、キリストにある愛を知った者は、自分を捨て、神を愛し、また人を愛したいと願うようになります。イエス様は、ご自分が弟子たちにとって手本であることを何度となくお語りになりました。弟子たちの足を洗われた後にこう言われました。「ヨハ 13:13-16 あなたがたはわたしを

『先生』とか『主』とか呼んでいます。そう言うのは正しいことです。そのとおりなのですから。14 主であり、師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのであれば、あなたがたもまた、互いに足を洗い合わなければなりません。15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、あなたがたに模範を示したのです。16 まことに、まことに、あなたがたに言います。しもべは主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者にまさりません。」使徒ペテロも、キリストが模範を残されたことを話しています。「Ⅰペテ 2:21 このためにこそ、あなたがたは召されました。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残された。」ですから、キリストが私たちを兄弟と呼び、兄弟のために命をお捨てになったのですから、私たちも兄弟のためにいのちを捨てるべきだ、ということです。

私たちは、どうしても、そこに「自分」が入ってきます。今、話したように、自分のいのちを愛している、自分を救いたいと思っているのです。ですから、そのたびに、イエス様にあって自分のいのちを捨てて、この方のいのちにあって愛していく必要があります。

他にもパウロが、愛の内に歩みなさい、キリストがそうされたのだから、という勧めをしています。「エペ 5:2 また、愛のうちに歩みなさい。キリストも私たちを愛して、私たちのために、ご自分を神へのささげ物、またいけにえとし、芳ばしい香りを献げてくださいました。」「エペ 5:25 夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたがたも妻を愛しなさい。」赦しの中にも、キリストが赦されたのだから、そうしなさいとも言っています。「コロ 3:13 互いに忍耐し合い、だれかがほかの人に不満を抱いたとしても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。」

2A 憐れみの心 17

「兄弟のためにいのちを捨てるべきだ」と言われると、そうかもしれないという高尚な思いになるかもしれません。私たちはとかく、キリストのために死ぬということについて、何か特別な時に行う特別なことだと思いがちです。そうではなく、ヨハネは、たった今、自分の目の前にいること書いている人々に、具体的に行うことによって、愛する命令に従うことになるのだということを教えます。「**17 この世の財を持ちながら、自分の兄弟が困っているのを見ても、その人に対してあわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょうか。**」事欠いている兄弟に、何かを差し出すというところから、自分の兄弟のためにいのちを捨てることであり、そうすることが愛なのだということです。

貧しい人に施すということは、旧約時代にも新約時代にも貫かれている神の教えです。「申 15:7-8 あなたの神、【主】があなたに与えようとしておられる地で、あなたのどの町囲みの中でも、あなたの同胞の一人が貧しい者であるとき、その貧しい同胞に対してあなたの心を頑なにしてはならない。また手を閉ざしてはならない。8 必ずあなたの手を彼に開き、その必要としているものを

十分に貸し与えなければならない。」ヤコブが手紙の中で、こう言っています。「ヤコブ 2:15-16 兄弟か姉妹に着る物がなく、毎日の食べ物にも事欠いているようなときに、16 あなたがたのうちのだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。温まりなさい。満腹になるまで食べなさい」と言っても、からだに必要な物を与えなければ、何の役に立つでしょう。」パウロは、エルサレムにいる仲間の使徒から、貧しい人への施しをするように勧められたようで、自分は大いに行ってきたことを弁明している箇所が、ガラテヤ書にあります(2:10)。

1B 持っている財

三つの動詞に注目したいです。一つは、「持つ」です。「この世の財を持ちながら」とあります。前に、世の愛として、「暮らし向きの自慢」についてヨハネは話しましたが(2:16)、世の愛のために、与えるべき人に与えられないという問題があります。しかし、持っているということは、神からの恵みです。「I コリ 4:7 いったいだれが、あなたをほかの人よりもすぐれていると認めるのですか。あなたには、何か、人からもらわなかったものがあるのですか。もしもらったのなら、なぜ、もらっていないかのように誇るのですか。」つまり、すべての持っているものは神から来たのであり、また人を通してきたのであり、本質的には自分の所有ではないということです。ですから、神がみこころとしておられるなら、それを神の願われるままに手放す必要があるということです。

2B 困窮への目

次の動詞は、「見る」です。「自分の兄弟が困っているのを見て」とあります。イエス様は、見ると言うことを大事にしておられました。歩いておられる時に、普通なら通り過ぎようような風景であっても、じっくりと見るのがよくありました。生まれつきの盲人のことを思い出してください、「ヨハ 9:1 さて、イエスは通りすがりに、生まれたときから目の見えない人をご覧になった。」と言われました。これは、じっくり注意して見る、という意味合いです。私たちが、主にあって関心をもって見ない限り、見えるものが見えないということは、しばしばあります。

3B 閉ざす心

そして、次は「閉ざす」という動詞です。「あわれみの心を閉ざす」とあります。この世の財は、実は自分のものはない、神から任されているものなのだ。そして、イエス様が見ておられるように、人々を見ていくようにする。そうすれば、自ずと憐れみの心が生じます。イエス様が憐れみ深い方だからです。「マタ 9:35-36 それからイエスは、すべての町や村を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいを癒やされた。36 また、群衆を見て深くあわれまれた。彼らが羊飼いのいない羊の群れのように、弱り果てて倒れていたからである。」ここでの憐れみは、腸で抱くような深い感情です。断腸の思いという中国から来た言い回しにあるような、深い憐れみです。そうした憐れみが、人々に分け与える原動力となります。ところが、世の愛、貪りがあるために、その心を閉ざすことがあるということです。イエス様は、金持ちとラザロの話において、憐れみの心を閉ざした金持ちが、ハデスにおいて悶え苦しんでいることを教えられました。ラ

ザロは貧しかったですが、死後に、アブラハムの懷で慰めを受けています。

3A 行いと真実 18

それでヨハネは、強く勧めています。「¹⁸ 子どもたち。私たちは、ことばや口先だけではなく、行いと真実をもって愛しましょう。」これまで、「～と言いながら、～であるなら、偽っている」とヨハネは言ってきました。言っていることによって、その人の霊的状态が分かるのではなく、その人の歩みによって知るのだ、ということです。言葉や口先だけで、憐れみを示していることを、ヤコブは、行いのない信仰と呼びました(2:16)。

1B ことばや口先

信じて、告白することは、聖書にも書かれていることであり、とても大切なことです。私たちプロテスタントの教会は、神の言葉を聞いて、言葉において礼拝することを大切にしますので、なおさらのことです。けれども、そこで騙されてしまいます。イエス様は、偽預言者を見分ける時に、その実によって見分けなさいと言われました。「マタ 7:15-20 偽預言者たちに用心しなさい。彼らは羊の衣を着てあなたがたのところに来るが、内側は貪欲な狼です。16 あなたがたは彼らを実によって見分けることになります。茨からぶどうが、あざみからいちじくが採れるでしょうか。17 良い木はみな良い実を結び、悪い木は悪い実を結びます。18 良い木が悪い実を結ぶことはできず、また、悪い木が良い実を結ぶこともできません。19 良い実を結ばない木はみな切り倒されて、火に投げ込まれます。20 こういうわけで、あなたがたは彼らを実によって見分けることになるのです。」

ことに、今、愛と言いますと、感情と混同していることがあります。けれども、愛は、その人の行いに表れるものです。母親が夜眠いのに、赤ん坊にお乳を上げる時に、愛しているからあげます。眠いのにそれでも、起きてあげるというところに愛があるのであり、言葉や口先ではないのです。言葉が多く、行いが少ない人たちがいます。そして周りの人々に影響を与え、自分の欲求に仕えるようにさせる人たちがいます。それを神の名で行うと、その人は偽教師、偽預言者と同じ道を歩むことになるのです。ペテロは第二の手紙で、バラムの道に警鐘を鳴らしましたが(2:15)、バラムはそういう人でした。

2B 真実な愛

ですから、愛には真実がなければいけません。「行いと真実をもって愛しましょう」とありますね。「ロマ 12:9 愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善から離れないようにしなさい。10 兄弟愛をもって互いに愛し合い、互いに相手をすぐれた者として尊敬し合いなさい。」言葉や口先で言っても、実際が伴っていなければ、それは偽りです。しかし、偽りのない愛をもって兄弟愛を示していきなさいと言われていています。

思うに、教会を生かすか殺すかは、ここにかかっていると思います。どれだけの行いと愛が、互

いの間にあるかどうかで、教会が生きるかどうかが決まって来るでしょう。自分を生かそうとするならば、他の兄弟たちに痛みが起こります。自分をキリストにあって、心の王座から降ろすなら、兄弟たちに神の恵みがあふれていきます。互いに愛の中に生きる時に、教会が教会として生き、救われる人々も加えて与えられます。